

## LM・米国・ ラージ・キャップ・ グロース・ファンド 愛称：アメリカンパワー

◇当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	無期限	
運用方針	主として魅力的な成長が見込めると判断する大型の米国企業の発行する株式を中心に投資を行い、信託財産の長期的な成長を目指します。	
主要運用対象	当ファンド	LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。 なお、株式等に直接投資する場合があります。
	LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド	主として米国に所在する企業の発行する株式を主要投資対象とします。
組入制限	株式への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。	
分配方針	決算日（原則として毎年7月22日、休業日の場合は翌営業日）に、収益分配方針に基づいて分配を行います。	

当報告書に関するお問い合わせ先：

レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社

お問い合わせ窓口

電話番号：03-5219-5947

### 運用報告書（全体版）

第10期 決算日 2016年7月22日

#### － 受益者のみなさまへ －

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・ファンド」は、2016年7月22日に第10期の決算を行いましたので、期中の運用状況と収益分配金をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

レグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社

〒100-6536 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号

<http://www.leggmason.co.jp>

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	騰落率		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税金	中期騰落率			
6期(2012年7月23日)	円 7,996	円 0	% 2.0	% 99.0	% —	百万円 347
7期(2013年7月22日)	13,263	0	65.9	96.3	—	397
8期(2014年7月22日)	15,910	0	20.0	97.0	—	330
9期(2015年7月22日)	22,484	0	41.3	97.7	—	276
10期(2016年7月22日)	19,779	0	△12.0	93.9	—	251

(注1) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注2) 株式先物比率は買建比率-売建比率。

(注3) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	騰落率		株式組入比率	株式先物比率
		騰落率	騰落率		
(期首) 2015年7月22日	円 22,484	% —	% 97.7	% —	
7月末	22,311	△0.8	93.3	—	
8月末	20,849	△7.3	94.2	—	
9月末	19,609	△12.8	94.3	—	
10月末	21,981	△2.2	94.4	—	
11月末	22,552	0.3	95.3	—	
12月末	22,115	△1.6	98.0	—	
2016年1月末	19,950	△11.3	93.8	—	
2月末	19,210	△14.6	93.3	—	
3月末	19,974	△11.2	95.1	—	
4月末	19,783	△12.0	95.6	—	
5月末	20,226	△10.0	96.5	—	
6月末	18,284	△18.7	93.3	—	
(期末) 2016年7月22日	19,779	△12.0	93.9	—	

(注1) 騰落率は期首比です。

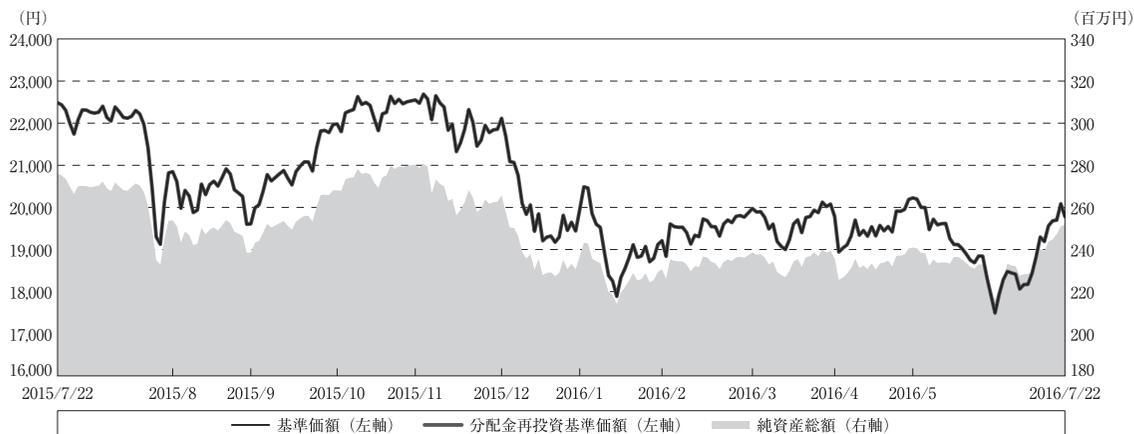
(注2) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注3) 株式先物比率は買建比率-売建比率。

## ○運用経過

### 期中の基準価額等の推移

(2015年7月23日～2016年7月22日)



期首：22,484円

期末：19,779円（既払分配金（税込み）：0円）

騰落率：△12.0%（分配金再投資ベース）

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首（2015年7月22日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

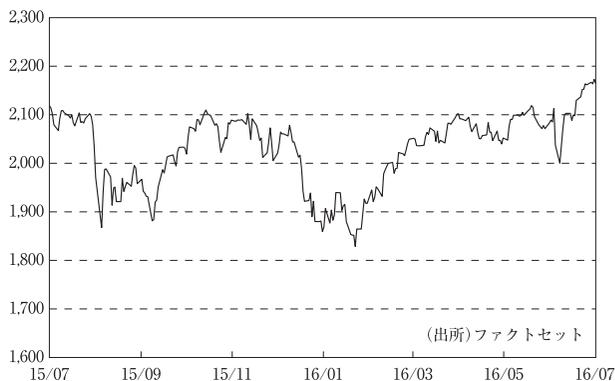
期末（2016年7月22日）のLM・米国・ラージ・キャップ・グロース・ファンド（以下、当ファンド）の基準価額は19,779円となりました。当期の当ファンドのパフォーマンス（騰落率）はマイナス12.0%、基準価額は2,705円下落しました。

米国株式相場の上昇を背景に、株式要因はプラスとなりました。一方、為替要因については、米ドル安・円高の進行を背景にマイナスとなりました。

## ① 米国株式市場の動向

当期の米国株式相場は、上昇しました。期の前半は、中国人民銀行が人民元の切り下げを発表し、中国景気の先行き不透明感が広がる中、株価は大きく下落しました。その後は、欧州中央銀行（ECB）による追加緩和期待が広がったことや、中国人民銀行が追加金融緩和に踏み切ったことなどが好感され、株価は上昇しました。期の半ばは、中国経済の先行き不透明感や原油価格の下落を受け、世界的に株式相場が軟調となる中、米国株式相場も下落しました。欧州の金融機関の財務悪化懸念が浮上したことも、株価の下落を促す要因となりました。その後は、原油価格が反発したことや、欧州金融機関に対する過度の懸念が後退したことなどから、株価は反発しました。期の後半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による今後の利上げが緩やかなペースにとどまるとの見方が広がったことなどから、株価は上昇傾向となりました。その後、英国の国民投票で欧州連合（EU）離脱が決定したことを受けて売り圧力が強まる場面が見られたものの、米国景気の先行き期待などを背景に、株価は堅調に推移しました。

米国S&amp;P500指数の推移



## ② 為替市場の動向

当期の米ドル・円相場は、米ドル安・円高となりました。期の前半は、世界的に株式相場が下落し、米国株式相場も大幅下落となったことから、リスク回避に伴う米ドル売り・円買いが強まりました。その後も、米ドルは対円で上値の重い展開となりましたが、ECBによる追加緩和期待が広がったことや、中国人民銀行が追加金融緩和に踏み切ったことなどを受けて、リスク回避姿勢が後退したことから、底堅く推移しました。期の半ばは、原油価格が下値を探る展開となる中、リスク回避姿勢が改めて意識されたことから、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後、日銀によるマイナス金利の導入を受けて米ドルは対円で上昇しましたが、FRBによる追加利上げが先送りされるとの見方が広がると再び下落しました。期の後半は、FRBによる今後の利上げペースが緩やかになるとの見方が広がり、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後は、英国の国民投票でのEU離脱決定を受けてリスク回避姿勢が強まったことから、米ドル売り・円買いが進みましたが、米国景気の先行きに対する楽観的な見方が広がると、米ドルは反発しました。

米ドル／円レートの推移



当ファンドは、主に「LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド」受益証券への投資を通じて、個別企業の徹底したファンダメンタル分析に基づき、魅力的な成長が見込める米国の大型成長株を中心に銘柄数を絞り込んで投資することにより、元本の長期的な成長を目指して運用に努めてまいりました。当期の運用においては、大型の米国企業の発行する株式を中心に投資を行い、経営能力が高く、長期にわたり競争力上の優位を維持できると期待される成長企業を発掘することにより、ポートフォリオの構築を行いました。

分配金につきましては、基準価額動向や保有株式の配当収入等を勘案し、以下の通りとさせていただきます。なお、収益分配に充当しなかった利益につきましては信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づき運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第10期
	2015年7月23日～ 2016年7月22日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	11,620

(注1) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。  
 (注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## ○今後の運用方針

---

米国経済に関しては、堅調な雇用情勢などを背景に全般に底堅く推移しており、今後も緩やかな成長基調を辿るものと予想されます。

金融政策については、FRBは2015年12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）において金融政策の正常化に着手しました。今後については、経済動向を見極めながら、慎重に追加利上げの時期を探っていくものと思われま

す。株式市場については、米国経済が緩やかな成長基調を続けるものと見込まれる中、株価は底堅く推移するものと予想されます。ただし、FRBによる金融政策の動向には引き続き注意が必要です。

為替相場については、米国経済が緩やかな成長基調を継続すると予想される一方、日本では日銀による積極的な金融緩和策が継続されると見込まれることから、米ドルは対円で底堅く推移するものと考えております。

当ファンドにおきましては、これまでと同様に、市場環境を注視しながら、投資魅力度の高い銘柄を厳選し、ポートフォリオの構築を行う方針です。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2015年7月23日～2016年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 367	% 1.782	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(189)	(0.918)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	(167)	(0.810)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	( 11)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	4	0.018	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	( 4)	(0.018)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有 価 証 券 取 引 税	0	0.000	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数
（ 株 式 ）	( 0)	(0.000)	有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) そ の 他 費 用	46	0.225	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	( 36)	(0.173)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	( 3)	(0.015)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ 印 刷 等 費 用 ）	( 7)	(0.035)	印刷等費用は、印刷業者等に支払う法定書類の作成、印刷、交付および届出に係る費用
（ そ の 他 ）	( 1)	(0.003)	権利配当処理に伴う費用
合 計	417	2.025	
期中の平均基準価額は、20,570円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2015年7月23日～2016年7月22日)

### 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド	千口 17,580	千円 41,849	千口 15,823	千円 39,108

(注) 単位未満は切捨て。

## ○株式売買比率

(2015年7月23日～2016年7月22日)

### 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額		120,562千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額		235,798千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)		0.51

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2015年7月23日～2016年7月22日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○第二種金融商品取引業を兼業している投資信託委託会社の自己取引状況

(2015年7月23日～2016年7月22日)

該当事項はございません。

## ○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2015年7月23日～2016年7月22日)

該当事項はございません。

## ○組入資産の明細

(2016年7月22日現在)

### 親投資信託残高

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末	
		口 数	口 数	評 価 額
		千口	千口	千円
LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド		105,785	107,542	254,005

(注) 単位未満は切捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

## ○投資信託財産の構成

(2016年7月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド	254,005	99.5
コール・ローン等、その他	1,174	0.5
投資信託財産総額	255,179	100.0

(注1) 金額の単位未満は切捨て。

(注2) LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産(247,574千円)の投資信託財産総額(255,190千円)に対する比率は97.0%です。

(注3) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、7月22日における邦貨換算レートは、1米ドル=105.71円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年7月22日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	255,179,258
LM・米屋・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド(評価額)	254,005,084
未収入金	1,174,174
(B) 負債	3,293,689
未払解約金	1,174,174
未払信託報酬	2,061,367
その他未払費用	58,148
(C) 純資産総額(A-B)	251,885,569
元本	127,350,751
次期繰越損益金	124,534,818
(D) 受益権総口数	127,350,751口
1万口当たり基準価額(C/D)	19,779円

<注記事項>

元本の状況	
期首元本額	122,822,913円
期中追加設定元本額	20,879,069円
期中一部解約元本額	16,351,231円

○損益の状況 (2015年7月23日～2016年7月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 有価証券売買損益	△ 24,989,886
売買益	2,179,633
売買損	△ 27,169,519
(B) 信託報酬等	△ 4,511,729
(C) 当期損益金(A+B)	△ 29,501,615
(D) 前期繰越損益金	115,885,828
(E) 追加信託差損益金	38,150,605
(配当等相当額)	( 32,068,847)
(売買損益相当額)	( 6,081,758)
(F) 計(C+D+E)	124,534,818
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金(F+G)	124,534,818
追加信託差損益金	38,150,605
(配当等相当額)	( 32,106,551)
(売買損益相当額)	( 6,044,054)
分配準備積立金	115,885,828
繰越損益金	△ 29,501,615

(注1) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注4) 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するため要する費用として、委託者報酬のうち販売会社へ支払う手数料を除いた額の100分の45相当額を支払っております。

(注5) 分配金の計算過程  
 計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(32,106,551円)および分配準備積立金(115,885,828円)より分配対象収益は147,992,379円(10,000口当たり11,620円)ですが、当期に分配した金額はありません。

# LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド

## 運用状況のご報告

第10期 決算日 2016年7月22日

(計算期間：2015年7月23日～2016年7月22日)

### － 受益者のみなさまへ －

法令・諸規則に基づき、「LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド」の、第10期の運用状況をご報告申し上げます。

◇当ファンドの仕組みは、次の通りです。

商 品 分 類	親投資信託
信 託 期 間	無期限
運 用 方 針	主として魅力的な成長が見込めると判断する大型の米国企業を中心に投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。
主 要 運 用 対 象	主として米国に所在する企業の発行する株式を主要投資対象とします。
組 入 制 限	株式への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準	価額		株組入比率	式率	株先物比率	式率	純資産額
		騰落	中率					
	円		%		%			百万円
6期(2012年7月23日)	8,922		3.7		98.0		—	350
7期(2013年7月22日)	15,030		68.5		95.4		—	401
8期(2014年7月22日)	18,329		21.9		96.1		—	333
9期(2015年7月22日)	26,343		43.7		96.9		—	278
10期(2016年7月22日)	23,619		△10.3		93.1		—	254

(注1) 株式先物比率は買建比率－売建比率。

(注2) 市場に広く認知されているベンチマーク等で、当ファンドのリスク特性を正確に反映する指標が見当たらないため、現状では、当ファンドの収益率及びリスク特性を特定のベンチマーク等と比較しておりません。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準	価額		株組入比率	式率	株先物比率	式率
		騰落	率				
(期首) 2015年7月22日	円		%		%		%
7月末	26,343		—		96.9		—
8月末	26,152		△0.7		93.3		—
9月末	24,478		△7.1		94.0		—
10月末	23,062		△12.5		93.9		—
11月末	25,877		△1.8		93.9		—
12月末	26,587		0.9		94.7		—
2016年1月末	26,114		△0.9		97.2		—
2月末	23,621		△10.3		93.8		—
3月末	22,780		△13.5		93.1		—
4月末	23,720		△10.0		94.8		—
5月末	23,527		△10.7		95.1		—
6月末	24,090		△8.6		95.9		—
7月末	21,825		△17.2		92.6		—
(期末) 2016年7月22日		23,619	△10.3		93.1		—

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 株式先物比率は買建比率－売建比率。

## ○運用経過

### 期中の基準価額の推移

(2015年7月23日～2016年7月22日)



### ○基準価額の変動要因

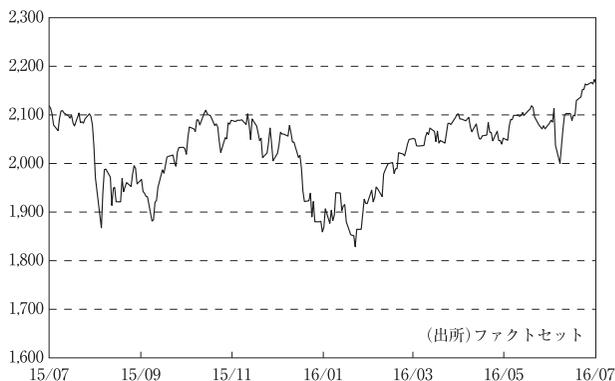
当期末（2016年7月22日）のLM・米国・ラージ・キャップ・グロース・マザーファンド（以下、当ファンド）の基準価額は23,619円となりました。当期の当ファンドのパフォーマンス（騰落率）はマイナス10.3%、基準価額は2,724円下落しました。

米国株式相場の上昇を背景に、株式要因はプラスとなりました。一方、為替要因については、米ドル安・円高の進行を背景にマイナスとなりました。

① 米国株式市場の動向

当期の米国株式相場は、上昇しました。期の前半は、中国人民銀行が人民元の切り下げを発表し、中国景気の先行き不透明感が広がる中、株価は大きく下落しました。その後は、欧州中央銀行（ECB）による追加緩和期待が広がったことや、中国人民銀行が追加金融緩和に踏み切ったことなどが好感され、株価は上昇しました。期の半ばは、中国経済の先行き不透明感や原油価格の下落を受け、世界的に株式相場が軟調となる中、米国株式相場も下落しました。欧州の金融機関の財務悪化懸念が浮上したことも、株価の下落を促す要因となりました。その後は、原油価格が反発したことや、欧州金融機関に対する過度の懸念が後退したことなどから、株価は反発しました。期の後半は、米連邦準備制度理事会（FRB）による今後の利上げが緩やかなペースにとどまるとの見方が広がったことなどから、株価は上昇傾向となりました。その後、英国の国民投票で欧州連合（EU）離脱が決定したことを受けて売り圧力が強まる場面が見られたものの、米国景気の先行き期待などを背景に、株価は堅調に推移しました。

米国S&P500指数の推移



② 為替市場の動向

当期の米ドル・円相場は、米ドル安・円高となりました。期の前半は、世界的に株式相場が下落し、米国株式相場も大幅下落となったことから、リスク回避に伴う米ドル売り・円買いが強まりました。その後も、米ドルは対円で上値の重い展開となりましたが、ECBによる追加緩和期待が広がったことや、中国人民銀行が追加金融緩和に踏み切ったことなどを受けて、リスク回避姿勢が後退したことから、底堅く推移しました。期の半ばは、原油価格が下値を探る展開となる中、リスク回避姿勢が改めて意識されたことから、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後、日銀によるマイナス金利の導入を受けて米ドルは対円で上昇しましたが、FRBによる追加利上げが先送りされるとの見方が広がると再び下落しました。期の後半は、FRBによる今後の利上げペースが緩やかになるとの見方が広がり、米ドル売り・円買いが優勢となりました。その後は、英国の国民投票でのEU離脱決定を受けてリスク回避姿勢が強まったことから、米ドル売り・円買いが進みましたが、米国景気の先行きに対する楽観的な見方が広がると、米ドルは反発しました。

米ドル／円レートの推移



## 当ファンドのポートフォリオ

当ファンドは、主に個別企業の徹底したファンダメンタル分析に基づき、魅力的な成長が見込める米国の大型成長株を中心に銘柄数を絞り込んで投資することにより、元本の長期的な成長を目指して運用に努めてまいりました。当期の運用においては、大型の米国企業の発行する株式を中心に投資を行い、経営能力が高く、長期にわたり競争力上の優位を維持できると期待される成長企業を発掘することにより、ポートフォリオの構築を行いました。

### ○今後の運用方針

米国経済に関しては、堅調な雇用情勢などを背景に全般に底堅く推移しており、今後も緩やかな成長基調を辿るものと予想されます。

金融政策については、FRBは2015年12月の米連邦公開市場委員会（FOMC）において金融政策の正常化に着手しました。今後については、経済動向を見極めながら、慎重に追加利上げの時期を探っていくものと思われまます。

株式市場については、米国経済が緩やかな成長基調を続けるものと見込まれる中、株価は底堅く推移するものと予想されます。ただし、FRBによる金融政策の動向には引き続き注意が必要です。

為替相場については、米国経済が緩やかな成長基調を継続すると予想される一方、日本では日銀による積極的な金融緩和策が継続されると見込まれることから、米ドルは対円で底堅く推移するものと考えております。

当ファンドにおきましては、これまでと同様に、市場環境を注視しながら、投資魅力度の高い銘柄を厳選し、ポートフォリオの構築を行う方針です。

## ○ 1 万口当たりの費用明細

(2015年7月23日～2016年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	円 4 ( 4 )	% 0.018 (0.018)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 ( 株 式 )	0 ( 0 )	0.000 (0.000)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 ( 保 管 費 用 ) ( そ の 他 )	43 (42) ( 1 )	0.175 (0.172) (0.003)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 権利配当処理に伴う費用
合 計	47	0.193	
期中の平均基準価額は、24,319円です。			

(注1) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注2) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○ 売 買 及 び 取 引 の 状 況

(2015年7月23日～2016年7月22日)

### 株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	アメリカ	百株 67 ( 1 )	千米ドル 502 ( ー )	百株 68 ( ー )	千米ドル 525 ( 4 )

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 単位未満は切捨て。

(注3) ( ) 内は、株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2015年7月23日～2016年7月22日)

### 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	120,562千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	235,798千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.51

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切捨て。

## ○利害関係人との取引状況等

(2015年7月23日～2016年7月22日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

## ○組入資産の明細

(2016年7月22日現在)

### 外国株式

銘柄	期首(前期末)		当 期		業 種 等
	株 数	株 数	評 価 額		
			外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)	百株	百株	千米ドル	千円	
ADOBE SYSTEMS INC	—	4	43	4,582	情報技術
AETNA INC	—	3	41	4,376	ヘルスケア
AKAMAI TECHNOLOGIES	7	10	58	6,155	情報技術
ALEXION PHARMACEUTICALS INC	—	2	37	4,010	ヘルスケア
ALPHABET INC-CL C	—	0.99	73	7,729	情報技術
ALPHABET INC-CL A	—	0.69	52	5,502	情報技術
AMAZON.COM INC	1	1	107	11,331	一般消費財・サービス
AMERICAN EXPRESS CO	2	5	34	3,620	金融
ANHEUSER-BUSCH INBEV SPN ADR	3	3	46	4,948	生活必需品
APPLE INC	4	3	35	3,762	情報技術
BIOGEN INC	1	1	47	4,986	ヘルスケア
BLACKROCK INC	1	1	54	5,776	金融
BRISTOL-MYERS SQUIBB CO	6	5	44	4,732	ヘルスケア
CME GROUP INC	2	—	—	—	金融
CVS HEALTH CORPORATION	7	7	74	7,901	生活必需品
CAMERON INTERNATIONAL CORP	7	—	—	—	エネルギー
CELGENE CORP	5	6	65	6,951	ヘルスケア
CITRIX SYSTEMS INC	5	—	—	—	情報技術
COCA-COLA COMPANY	12	11	50	5,342	生活必需品
COMCAST CORP-CLASS A	—	10	67	7,148	一般消費財・サービス
COMCAST CORP-SPECIAL CL A	8	—	—	—	一般消費財・サービス
THE WALT DISNEY CO.	5	4	46	4,962	一般消費財・サービス
EMC CORP/MASS	10	—	—	—	情報技術
EBAY INC	8	7	22	2,369	情報技術

銘	柄	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等
		株 数	株 数	評 価 額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
(アメリカ)		百株	百株	千米ドル	千円	
ECOLAB INC		—	3	44	4,717	素材
FMC TECHNOLOGIES INC		6	—	—	—	エネルギー
FACEBOOK INC-A		5	4	55	5,903	情報技術
FORTINET INC		—	5	18	1,981	情報技術
GENERAL ELECTRIC COMPANY		14	13	44	4,674	資本財・サービス
GOOGLE INC-CL A		0.79	—	—	—	情報技術
GOOGLE INC-CL C		0.99	—	—	—	情報技術
WW GRAINGER INC		1	1	34	3,618	資本財・サービス
HOME DEPOT INC		5	4	65	6,976	一般消費財・サービス
JOHNSON & JOHNSON		4	4	52	5,596	ヘルスケア
LINKEDIN CORP - A		1	—	—	—	情報技術
MICROSOFT CORP		13	13	76	8,057	情報技術
MONSANTO COMPANY		4	3	40	4,273	素材
NASDAQ INC		5	5	35	3,710	金融
NIKE INC -CL B		2	—	—	—	一般消費財・サービス
PALO ALTO NETWORKS INC		—	1	24	2,542	情報技術
PAYPAL HOLDINGS INC		8	10	40	4,322	情報技術
PRECISION CASTPARTS CORP		1	—	—	—	資本財・サービス
RED HAT INC		5	5	42	4,509	情報技術
REGENERON PHARMACEUTICALS		0.5	0.7	27	2,882	ヘルスケア
ROCKWELL COLLINS INC		—	4	36	3,896	資本財・サービス
SCHLUMBERGER LTD		6	8	69	7,308	エネルギー
THE CHARLES SCHWAB CORPORATION		10	13	37	3,922	金融
TEXAS INSTRUMENTS INC		5	5	35	3,746	情報技術
THERMO FISHER SCIENTIFIC INC		3	3	48	5,118	ヘルスケア
TWENTY-FIRST CENTURY FOX-A		6	10	28	2,999	一般消費財・サービス
UNITED PARCEL SERVICE-CL B		3	4	48	5,111	資本財・サービス
UNITEDHEALTH GROUP INC		4	4	64	6,826	ヘルスケア
VISA INC-CLASS A SHARES		9	8	65	6,896	情報技術
VMWARE INC-CLASS A		4	5	39	4,184	情報技術
XILINX INC		7	6	30	3,243	情報技術
YUM! BRANDS INC		4	4	39	4,125	一般消費財・サービス
ZOETIS INC		8	11	58	6,201	ヘルスケア
EATON CORP PLC		4	4	28	2,980	資本財・サービス
合 計	株 数 ・ 金 額	268	267	2,237	236,521	
	銘 柄 数 < 比 率 >	48	47	—	<93.1%>	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注2) 邦貨換算金額欄の<>内は、純資産総額に対する株式評価額の比率。

(注3) 株数・評価額の単位未満は切捨て。

(注4) —は組入れなし。

## ○投資信託財産の構成

(2016年7月22日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
株式	千円 236,521	% 92.7
コール・ローン等、その他	18,669	7.3
投資信託財産総額	255,190	100.0

(注1) 金額の単位未満は切捨て。

(注2) 当期末における外貨建純資産(247,574千円)の投資信託財産総額(255,190千円)に対する比率は97.0%です。

(注3) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、7月22日における邦貨換算レートは、1米ドル=105.71円です。

## ○特定資産の価格等の調査

(2015年7月23日～2016年7月22日)

該当事項はございません。

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年7月22日現在)

## ○損益の状況 (2015年7月23日～2016年7月22日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	262,377,431
コール・ローン等	18,453,703
株式(評価額)	236,521,472
未収入金	7,191,260
未収配当金	210,996
(B) 負債	8,367,826
未払金	7,193,640
未払解約金	1,174,174
未払利息	12
(C) 純資産総額(A-B)	254,009,605
元本	107,542,692
次期繰越損益金	146,466,913
(D) 受益権総口数	107,542,692口
1万口当たり基準価額(C/D)	23,619円

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	2,682,004
受取配当金	2,672,891
受取利息	9,678
支払利息	△ 565
(B) 有価証券売買損益	△ 29,686,149
売買益	23,029,427
売買損	△ 52,715,576
(C) 保管費用等	△ 398,700
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 27,402,845
(E) 前期繰越損益金	172,886,385
(F) 追加信託差損益金	24,268,838
(G) 解約差損益金	△ 23,285,465
(H) 計(D+E+F+G)	146,466,913
次期繰越損益金(H)	146,466,913

<注記事項>

(注1) 元本の状況

期首元本額 105,785,240円

期中追加設定元本額 17,580,814円

期中一部解約元本額 15,823,362円

(注2) 期末における元本の内訳

LM・米国・ラージ・キャップ・グロース・ファンド 107,542,692円

(注1) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。